

楚辞「漁父辞」実践報告

R7 6月22日（日）

於：國學院大學

全国漢文教育学会大会 中高の部

発表者：私立昭和学院中学高等学校 前園悠太

発表の流れ

- ①教材「漁父辞」について
- ②学習者について
- ③授業の目標について
- ④評価について
- ⑤授業の展開と生徒の回答
- ⑥実践の成果、今後の展望

①教材「漁父辞」について

『精選古典探究 漢文編』東京書籍

I 部「文——三編」

⇒楚辞「漁父辞」

陶淵明「五柳先生伝」

李白「春夜宴桃李園序」

①教材「漁父辞」について

「漁父辞」は屈原と漁父との問答を通し、2つの生き方の典型に触れることができる。高校2年生という多感な時期にある生徒たちに「自己の信念」と「社会との折り合い」、「個性」について考えさせるきっかけを与えられると考える。

屈原の「孤立してまでも信念を貫こうとする姿勢」と
漁父の「内面の自由さえ守ることができれば、

世俗と共に推移してもかまわないという姿勢」
を対比することで、自己形成や社会での立ち居振る舞いを
意識する機会となりうる。

②学習者について

1年次に基本的な句法や漢文の基礎的な知識を学習しているが、ほとんど定着していない。

また、漢文の時間が限られている状況にあり、それが定着不足やさらなる苦手意識を引き起こしていると考えられる。

多くの生徒は漢文に対してネガティブな印象を持っており、学習への消極的な姿勢が見受けられる。一方で、個々の興味関心を引き出せば、漢文の内容や背景に対して意欲的に取り組む可能性を秘めていると考えられる。

③授業の目的について

①書き下し文と現代語訳を作ることができる〈知識技能〉

②「漁父辞」を読み解き、

屈原と漁父の処世観の違いを理解する。

〈思考判断表現〉

③屈原の信念や漁父の柔軟な生き方を通じて

「個性」について考える。

④自己の信念や他者との関わり方を見つめ直し、

自分の生き方について考える。〈主体〉

④評価方法

〈知識・技能〉

- ⇒ 1) 書き下し文を作ることができる
- 2) 現代語訳（穴埋め）を作ることができる

〈思考・判断・表現〉

- ⇒ 授業後にGoogleFormのテスト機能を利用した内容テスト
- 〈主体的に学習に取り組む姿勢〉
- ⇒ 学習を踏まえて自分の考えを述べることができる

⑤授業の展開について

〈1〉全体像 全5回

- ⇒ 第1回：導入・楚辞概説・屈原調べ学習
- ⇒ 第2回：屈原調べ学習まとめ・漁父辞概要説明
- ⇒ 第3回：本文読解（前半）〈書き下し文・現代語訳〉
- ⇒ 第4回：本文読解（後半）〈書き下し文・現代語訳〉
- ⇒ 第5回：屈原と漁父の対比・個性について考えをまとめる

➡ 〈2〉授業の展開と生徒の回答

第1回

- ①「個性を表現している人物とはどのような人か」
(GoogleFormで意見を集約)

⇒服装（見た目）や言動に特徴のある有名人ばかり

- ②楚辞の概説

- ③屈原について、

調べ学習を行い人物像をワークシートにまとめる

➡ 第2回：屈原調べ学習まとめ・漁父辞概要説明

- ①前回のシートを元に、屈原追放の背景を確認しつつ
「個性」と「集団」の関係性にふれる

- ②「漁父辞」のあらすじ、屈原と漁父の対話を示す。

第3回：本文読解（前半）

第4回：本文読解（後半）

①『楚辞集注全注釈 五』（明德出版社）を参考に解釈を 紹介・確認

- ⇒屈原曰、「举世皆濁、我独清。衆人皆醉、我独醒。是以見放。」
（『楚辞章句』「志ありて己れを潔くするなり」「財賄に惑へるなり」
「廉にして自ら守るなり」）
- ⇒漁父曰、「聖人不凝滯於物而能与世推移。
世人皆濁、何不泥其泥而揚其波。
衆人皆醉、何不餽其糟而歠其醢。何故深思高举、自令放為。」
（『楚辞章句』「其の風を同じうするなり」「其の俗に従ふなり」）
- ⇒滄浪之水清兮 可以濯吾纓 滄浪之水濁兮 可以濯吾足
（『楚辞章句』「沐浴して朝廷に升るなり」「宜しく隠遁すべきなり」）

第5回：屈原と漁父の対比・個性について考えをまとめる

- ①屈原の「自己を貫く生き方」と
漁父の「環境に応じた生き方」を対比する
- ②「個性を大切にすること（反集団性）」と
「個性を抑えること（集団性）」の
メリット・デメリットについて考えをまとめる
- ③自身が今後どのように生きていきたいかを考える

第5回：屈原と漁父の対比・個性について考えをまとめる

- ①ワークシートを用い、屈原の「自己を貫く生き方」と
漁父の「環境に応じた生き方」を対比する

⇒1) 屈原と漁父の生き方の特徴を挙げる

例：屈原：一片の汚れも認められない

自分だけが正しい⇒自己陶醉（ナルシスト）

自分が正しいという考えは変えないが、

仲間がいないため世の中を動かすこともできない

漁父：柔軟性と協調性がある・現実を受け入れている

こだわりがない・臨機応変

第5回：屈原と漁父の対比・個性について考えをまとめる

- ①ワークシートを用い、屈原の「自己を貫く生き方」と
漁父の「環境に応じた生き方」を対比する

⇒2) 屈原と漁父の生き方の共通点と相違点を整理する

共通点：互いに自分の意見を正しいと考えている

世俗に対して屈原が正論を述べていると認識

世俗のことを気にしている

相違点：世俗への対応の仕方（否定と同調）

第5回：屈原と漁父の対比・個性について考えをまとめる

- ①ワークシートを用い、屈原の「自己を貫く生き方」と
漁父の「環境に応じた生き方」を対比する

⇒3) 屈原と漁父への共感

屈原：12 ⇒ ○圧倒的に生きづらくなるだろうけど、自分の信念を曲げて、間違っていると分かっていることを選択する方がストレスになるから
○ブレることのない生き方がカッコいいから

漁父：23 ⇒ ○自分の意見を周囲にわかってもらうためにはまず周囲との関係を築かなければならないから
○漁父の生き方の方が気持ちが楽になれるから

第5回：屈原と漁父の対比・個性について考えをまとめる

- ②「個性を大切にすること（反集団性）」と
「個性を抑えること（集団性）」の
メリット・デメリットについて考えをまとめる

⇒「個性を大切にすること（反集団性）」

メリット：自分に自信が持てる・自分らしくいられる
自分をたいせつにできる

デメリット：集団から排除されてしまう可能性がある
敵ばかり作ってしまう

第5回：屈原と漁父の対比・個性について考えをまとめる

②「個性を大切にすること（反集団性）」と

「個性を抑えること（集団性）」の
メリット・デメリットについて考えをまとめる

⇒「個性を抑えること（集団性）」

メリット：孤立しない・安心できる・生きやすい

デメリット：自分に嘘をつくことがある・周囲に流される
確固たる自分がもてなくなるかもしれない

⑥実践の成果、今後の展望

今回の授業を通して、生徒達は

屈原と漁父という生き方の典型に触れることができた。

生徒たちはそれぞれが、屈原と漁父に共感できる点を見いだすことができた。

今後の展望

①初発と読後を比較する発問の設定

②古典作品へ自ら“共感”しようとする姿勢の育成